

■吉川惟足 神道家。神道を、儒仏に対抗する、国家経世の学として普及することを意図し、吉川神道を開いた。

よしかわこれたり

徳川家康没・1616=

江戸で、近江国野洲郡吉川村の近江源氏佐々木氏の末裔に生まれる。祖父は徳川家康に仕え小田原攻めで戦死。姓はきっかわともよむ。

仕官を志して江戸に赴いた父が病死したため、

伊予断交・1624= 8歳：母は泉州堺へ帰郷。\_日本橋の商家尼崎屋の養子となる。

寛永寺創建・1625= 9歳：

徳川秀忠没・1632=16歳：

鎖国令Ⅱ・1634=18歳：\_尼崎屋五郎左衛門と称して家業を継ぐが、

家光鎖国完成1641=25歳：

寛永飢饉終・1643=27歳：

\_商売に失敗して品川に移り、

徳川家光没・1651=35歳：\_鎌倉に隠退。和歌を嗜み、歌道を通して神典の研究に専念。京都へ赴いた時、烏丸資慶に歌道を学び、

承応事件・1652=36歳：

野郎歌舞伎始1653=37歳：\_再び上洛、萩原兼従の門人となって吉田神道を学び、刻苦勉励、

\_やがて、その学力と人柄により、師に愛され、

.....1656=40歳：\*兼従より秘伝をうけ、吉田神道天児屋命54代の道統継承者となった。

明暦の大火・1657=41歳：\_神道を紀伊藩主徳川頼宣に説き、会津藩主保科正之等の信任をえ、それらの斡旋で老中堀田正俊に謁し、その後、紀伊藩主徳川頼宣の招見に成功し、また、相模国小田原藩主稲葉正則・陸奥国弘前藩主津軽信政・安芸国三次藩主浅野長治などの有力大名に、神道の教えを説くに至り、多くの武士も彼の門人となった。中でも、会津藩主保科正之は朱子学を信奉し、晩年は神道に関心を深め、

清帝国始・1661=45歳：\*惟足の教説に接し、いわゆる吉川神道の熱心な支持者となり、これをもとに会津藩の神社制度改革を行なった。保科正之の会津藩、津軽信政の津軽藩の士風・学問・思想に、大きな影響を与える。

のち山崎闇斎も惟足に学ぶ。

酒井忠清大老1666=50歳：

入鉄砲出女令1667=51歳：\_4代將軍徳川家綱にも召される。

.....1670=54歳：

越後騒動・1679=63歳：

徳川綱吉將軍1680=64歳：

好色一代男・1682=66歳：\*6代將軍徳川綱吉により幕府の神道方に任ぜられ、俸米100石を受け、本所押上に屋敷を賜わり、嗣子吉川従長から、代々この職を世襲することになった。

堀田正俊暗殺1684=68歳：

日本永代蔵・1688=72歳：

芭蕉+師宣没 1694=78歳：\_没した。本所押上の邸内に祠を建て視吾堂靈社として祀られたが、明治時代に青山墓地に改葬された。「神道大意註」「神道大意講談」。